

「nokka」はフィンランド語で「くちばし」という意味で、「巣」という意味を持つ同施設名との親和性を持たせたということ。トレーラーハウス型の施設（4名まで宿泊可能）2基が新設され、それぞれデッキ、屋上テラス、シャワー、トイレなどを完備し、7月31日（土）に正式なオープンを迎えました。

町や幡多地域には他にもないたくさんさんの魅力的な観光資源がある。この新しい施設が観光の拠点となるよう頑張っていきたい」とあいさつがありました。



バルーンリリースをする出席者ら

ネストグランピングプレイス「nokka」完成セレモニー
ネスト・ウエストガーデン土佐がこの程、施設敷地内へグランピング施設（※）を新設し、7月27日（火）、関係者を招待し完成セレモニーと内覧会が行われました。
セレモニーには、松本敏郎町長など約20名が出席。同施設・代表取締役の山本祥平さんから「黒潮



黒潮町公式Instagram

黒潮町公式Instagramでは、いつもの景色を少し見方を変えてより楽しんでもらえるよう、季節やイベントに合わせた黒潮町の写真をお届けしています。ぜひ一度のぞいてみてください。

Instagramで @kuroshio_town で検索してみてね



〇お問い合わせ 企画調整室 企画振興係 ☎43-2177

※グラマラスキャンピングの略。テント設営や食事の準備などの煩わしさを省略したキャンピングの総称。



完成したグランピング施設

「同級生聖火ランナー」が黒潮町で再会



トーチを持ち笑顔を見せる
久保さん（写真左）・塩田さん（写真右）

1964年と2020年、それぞれの東京オリンピックで聖火ランナーを務めた同級生の2人が8月2日（月）、黒潮町で再会し、役場本庁舎で展示をしていた自身のトーチを片手に笑顔で記念撮影を行いました。

2人は大方中学校時代、陸上部に所属し青春をともにした同級生。1964年に久保一博さん（旧姓：湊本）が、その後50年以上の時を経て、塩田充幸さんが2020年のオリンピック聖火ランナーとして高知県を駆け抜けました。

久保さんは中学校入学時、野球部に入部しようとしていたところ、当時の顧問の先生に声をかけられ陸上部へ入部。同じく陸上部へ入部した塩田さんとともに部活動に励み、塩田さんが長距離を走る時には久保さんが自転車で伴走をしたりするなど、青春時代をともにしました。

現在は、北海道札幌市に住み、不動産業を営む久保さんと、黒潮町に住み建築業を営む傍ら、陸上クラブ「大方JAC」で子どもたちに陸上を指導する塩田さん。オリンピックの開催年に合わせ、4年に1回は2人を含む同級生と同窓会を行っておりそこで顔を合わせていましたが、新型コロナウイルス感染症の影響で久しぶりの再会となったこの日。久保さんは、塩田さんについて、「今でも走り続ける現役で、本当に頑張っている。頭の下がる思い。充幸くんが聖火ランナーをすると聞いた時は、感激したね」と話していました。また、塩田さんは、「聖火ランナーが決まったその日の夜に一博くんに電話をした。やっと追いついた、そう話しましたよ」と振り返りました。

久保さんは久しぶりの黒潮町に「やっぱり懐かしいし、こういう友がいるから。本当に良いところですよ」と安心した表情を浮かべ、塩田さんや一緒に集まった旧友らとの再会を喜んでいました。